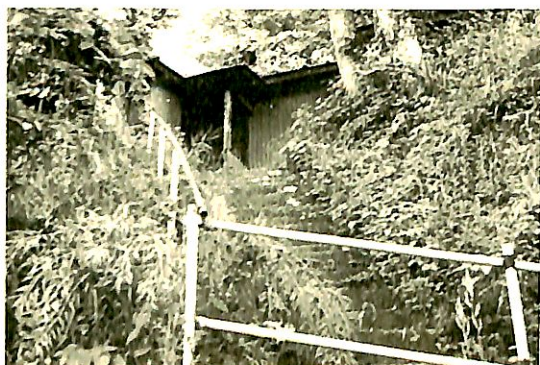


十一面観音、大日
如来が合祀されてい
る。

薬師堂



所在地 大字長谷倉木山

薬師如来、天満宮を合祀して
ある。



薬師堂

薬師如来像及び如意輪観音像が安置してある。観音像の台座
に「于時享保六歳丑天南郷菅尾村之産山村姓益城郡中嶋丹右衛
門元貞八月建立」とあり、「きりき」に在ったものを移したも
のである。

所在地 大字長谷目細

長福寺阿弥陀堂



所在地 大字長谷稲生

阿弥陀如来が安置されている。

大師堂

所在地 大字玉目伊野

七十九番、七十〇番、石仏外一体が合祀されている。

大師堂

所在地 大字長谷塚野

弘法大師、馬頭観音を合祀してある。

地藏堂

所在地 大字玉目

宿ノ谷

火伏地藏、大日如来を合祀してあり、

七十二番、七十五番の石仏が合祀されている。

観音堂

所在地 大字大見口岩下

明治二十三年（一八九〇）八月現在地の岩穴に移転され、金



毘羅、大日如来、馬頭観音、石仏六十四番が合祀してある。

松桃山西福寺

所在地 大字上差尾百枝

観音像、千手観音、石仏七十一番が合祀してある。

此処は明治三十九年（一九〇六）八月九日焼失し、同十月六日再建に着手し、明治四十年一月十五日落慶とある。庭前に火災に焼けた仏像の灰を埋めた「灰塚」が残されている。

東山東福寺

所在地 大字上差尾

阿弥陀如来、外十二体の仏像。

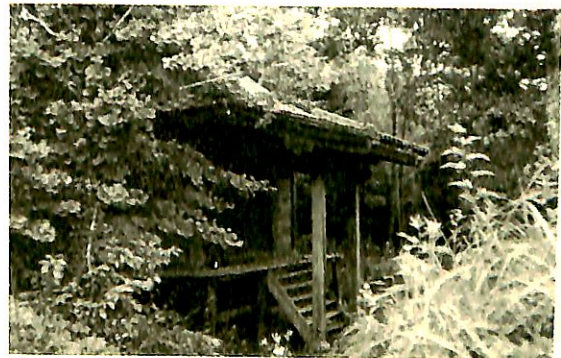
子年、釈迦、丑、金剛、寅、

普賢、卯、薬師、辰、文珠、巳

、地藏、午、虚空、未、摩利支

天、申、観世音、酉、阿弥陀、

戌、得大勢至、亥、弥勒の菩薩



が安置してある。

観音堂

所在地 大字上差尾

馬頭観音が安置してある。

大師堂

所在地 大字上差尾

十一番石仏、千手観音を合祀してある。

興福寺阿弥陀堂

所在地 大字大見口

阿弥陀如来、六十一番の石仏が合祀してあり、見正山^國福寺、禮正山明福寺を合祀したものと見られる。



薬師堂

所在地 大字二津留

薬師如来、弘法大師、天満宮、

馬頭観音が合祀してある。



薬師堂

所在地 大字大見口平田

薬師如来、弘法大師、馬頭観音が合祀してある。



地藏堂



慈光山正宝寺観音堂

所在地 大字柏元柏

観音像、火伏地藏、天満神が合祀してある。石仏四十番、四十一番が祀られている。

八幡堂

所在地 大字二瀬本大野原
徒立地藏菩薩三尊、天満宮、金毘羅像が合祀してある。

二瀬本弘法大師

所在地 大字二瀬本坂上
八幡大菩薩（九刃大菩薩）、天満宮外一体が合祀してある。

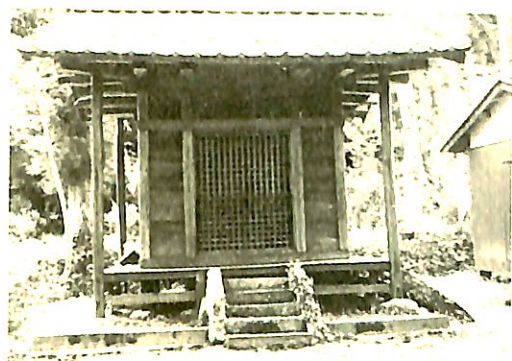
所在地 大字二瀬本



泰建立四国八十八ヶ所弘法大師の板碑一基、石仏、七十三番、六十九番、七十四番、六十八番、六十番、六十六番の六体が安置してある。

板碑及び石灯籠に、弘化五年（一八四八）申三月（嘉永と改元）とある。

薬師堂



薬師如来、年の神が合祀してある。

所在地 大字二瀬本丸小野

大師堂

所在地 大字菅尾

弘法大師が祀られている。

大師堂

所在地 大字米迫米山

弘法大師、天満宮、観音像外
数体が合祀してある。



丸小野観音

所在地 大字二瀬本丸小野

観音像が丸小野、熊野神社の石段横の岩穴に安置してある。

火伏地蔵

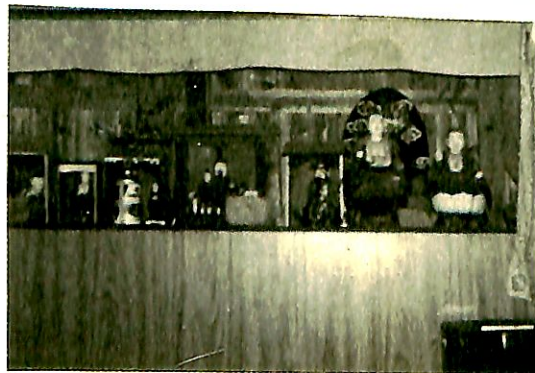
所在地 大字菅尾 旧保育所前

火伏地蔵が祀ってある。此の地蔵尊は、旧保育所の後にあつたものを現在地に移転したものである。

大師堂

所在地 大字菅尾大久保三又路

弘法大師外数体が祀ってある。



大師堂



石像第六十五番が安置してある。

所在地 大字菅尾大久保 菅尾局前

観音堂

所在地 大字菅尾赤迫

千手観音、外二体が安置してある。その歴史は古いと言われているが、棟簡の文字が判別出来得ず、その由来が判明出来ない。

地藏堂

所在地 大字米迫大迫

火伏地藏、馬頭観音、天満宮が合祀されている。此処の火伏地藏の由来は、地藏尊を運ぶ途中に、地藏尊の希望によって現在地に祀ったとの伝があると古老は語っている。



慈眼寺観音

所在地 大字今猫渕



由来については、大字八木字堂床にあったものを寛永年間（一六二四）頃に移転したものである。然って小字名の堂床はこの由来である。今村は南北朝時代以前から「いま村」と紹介されている。寺内に宝篋印塔、五輪塔、板碑があり、杉の巨木の切

株が永い歴史を物語っている。なお石仏四十九番、五十番が安置されている。

滝下観音

所在地 大字今滝下

五ヶ瀬川左岸の岩穴に観音像外数体が安置されている。岩壁に為在善男子善女人為現當二世法花 千

部奉讀誦建立御堂□金龍山妙典寺十一面

尊像奉造立成就之砌奉寄進処 龍下之内

上者自作竹林溪下者境及□寺領畢於子々孫

為給人永代此内可住地□人不可召仕

法花讀誦者開山坂東相模國藤澤住人龍音

禪師 願主今村山城守源末久

于時 永正六年（一五〇九）

巳巳正月十八日

法名 昌清

金永

と刻まれているが、これは今村氏が米山に築城したとされる永録三年（一五六〇）より、五十一年前の事である。更に修理の記録が大正十四年四月改修

今村山城守後胤

今村 虎熊

同 龜三郎

同 定雄

同 國八

田上 市太郎

同 龜太郎

藤屋 廣記

鹿兒島県川辺郡

笠砂村 石工 上村 庄一

と岩壁に刻まれている。

今の観音像は現在地の上の岩穴に安置されていたが、岩崩れのため現地に移転したものであるが、此の年月は判っていないと言う。

此処は「龍下の観音さん」として近郷に知られ、縁日の正月十八日には相当な賑わいであった。

阿弥陀堂

所在地 大字塩出迫上塩出

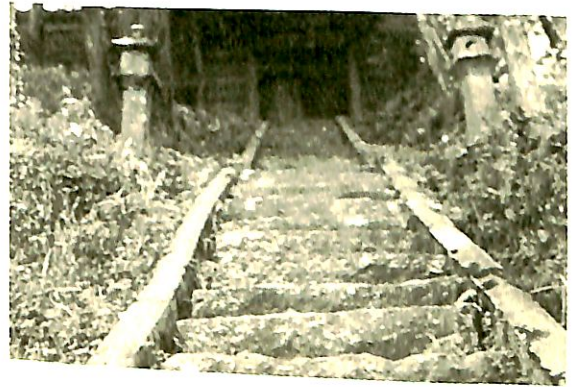
阿弥陀如来外数体を合祀してある。



長福寺阿弥陀

所在地 大字塩出迫下塩出

附近に御手洗池として二十坪位あり、秋の彼岸に掃除され、「お籠り」の行事がある堂宇である。「懸奉、願成山持福寺、応永二十二年申（一四一五）十二月、大日刻豊後直入郷木原」と銘が刻まれた鰐口がある。



米粕山地蔵

石が数千個埋められているとされ、慶長十五年（一六一〇）建立とされる火伏塚、明治二十七年（一八九四）、二十八年の戦役の戦捷記念塔を吉田正明氏が建立している。
この阿弥陀堂は吉田正明氏宅から移転されたものと言われている。

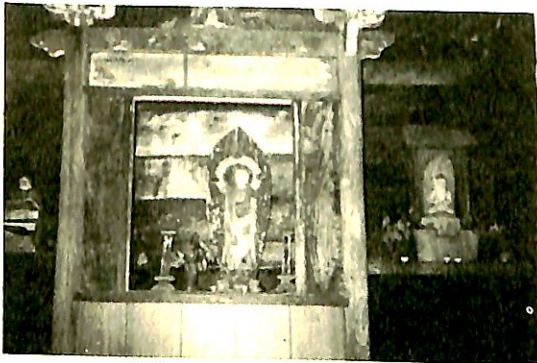
所在地 大字今字山の内

蔵福□と刻まれ、仏像を浮刻にした線刻の地蔵で、願主今村山城守とある。この由来については詳でない。

観音堂

所在地 大字八木神の木

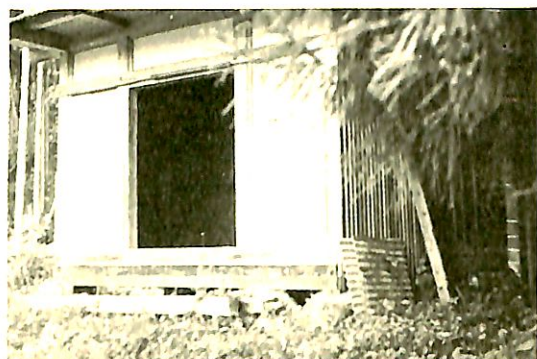
十一面観世音を安置してある。これは永寿寺の裏にあったものを移したものである。



観音堂

所在地 大字八木八屋

観音堂は「福士寺」とあり、境内に宝塔の一部が残されている。



恵仲菴昆沙門薬師

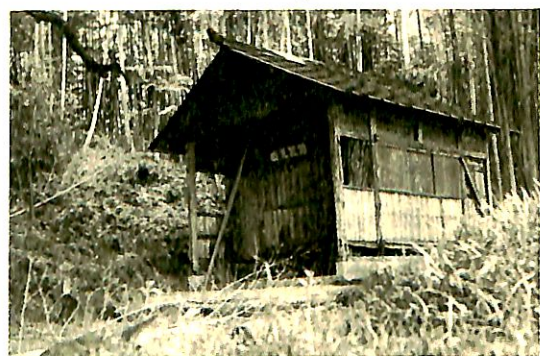
所在地 大字塩原斗塩

阿弥陀如来外数体を合祀してある。明治十年頃に大字塩原地区の仏体を合祀したもので、寺号とは相違するかと考慮される

菅尾山長寿寺

所在地 大字菅尾

十一面観音像が安置してある。寺内に「ヒイラ木」の大木がある。



火伏地藏堂

所在地 大字方ヶ野

国道二一八号線沿の岩穴の中に地藏尊が安置されている。古来から火伏地藏と呼ばれている。此の地藏尊は「夜尿症」「よだれ症」に対して御利益ありと言われ、近在の人々の願意が多い処である。

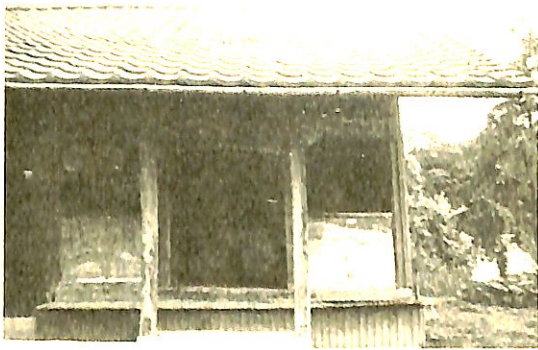


正福寺観音堂

所在地 大字神前

十一面観音、馬頭観音、不動明王、子安観音が合祀されている。

洪徳寺地蔵



所在地 大字柳井原

火伏地蔵外数体が安置してある。此処には樺や銀杏の太木が明治十年（一八七七）頃に伐採されている。馬見原の火伏太鼓の胴はこの樺である。

この火伏地蔵には毎朝、当番の人が茶罐一杯の水を地蔵さんに供えてある茶碗七ツに水を供



えている。このことは番帳で行われ、毎日の交代制で日参りの行事がある。

西向山安楽寺（柳井原八十八ヶ所）

所在地 大字柳井原字村の前

佐藤宝作翁が明治四十二年に村の五穀豊穡と悪疫退散を希い、四国八十八ヶ所の仏像と、三十三体の観音像を刻み西向山安楽寺として安置したもので、全山に「つつじ」が植栽されている。八十八ヶ所の仏像の配置は「一間を一里」に縮尺、四国八十八ヶ所の寺の所在地の如く山坂は坂にそれぞれ安置され、仏像は計百十一体となっている。

祭りは毎年春の彼岸の中日に行なわれている。特に注目しているものに「野外演劇場」がある。今日の球場の観覧席のような形状になっている。この演劇場は昭和初期まで演劇が行なわれ、農村の唯一の慰安にもなっていた。

翁はこの外に乳牛を飼育し、無医村を憂て、東長次郎を医師として招き医療を行わせている。今日でも東長次郎先生の墓守を柳井原の人達が行っている。



観音堂

所在地 大字白石

観音像、火伏地藏が合祀してある。



寛永三年（一六二六）丙寅六月十六日

出願成就所 曾我源三郎

明治十九年（一八八六）戊辰五月十一日入村（土戸に来た事か）
致し観世音裏板に是迄通印有于為後年為大驛白亀堂とあり。

寺内に文化十二年（一八一五）の碑がある。（倒伏しているが保存の要あり）

手洗鉢は嘉永七年（一八五四）（安政と改元）七月とある。

教尊寺趾

所在地 大字滝上土戸

滝上の教尊寺が現在地に移転する前にあった所で、当時の井戸跡、建物の基礎石が残されている。

土戸山円福寺

所在地 大字滝上土戸

薬師如来、弘法大師を合祀してある。



九芎肥後國阿蘇郡土戸山圓

福寺

御本尊建立の折

南無薬師如来御宝前

吉蔵

源作

慶長十四年（一六〇九）寅

竿渡薬師堂

所在地 大字滝上竿渡

薬師如来像が安置されている。



会葉山青柳寺

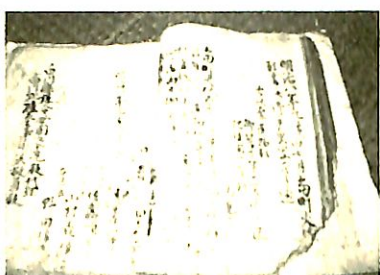
所在地 大字瀧上須刈

阿弥陀如来外数体が合祀されている。寺内に元禄十四年（一七〇一）と刻まれた石籠籠、宝篋印塔の頭部二体が残されている。



火伏地藏堂

所在地 大字馬見原



現在の「青雲山龍泉寺（通寺順正寺）」の寺内の観音堂に安置

されていた地藏尊を遷仏したもので、

高祖藤原之八田越後

右者仁恵様人□□□諸民の安からしめんが為今の観音堂の地藏尊一所に安置之有処永禄六年亥年（一五六三）頃地藏尊を新町北側に遷仏仕候

とあり、以来火伏地藏として行事があり、当日には龍泉寺住職の読経に始まり行事が行なわれ造物の通しが伝えられている。

観音堂

所在地 大字馬見原龍泉寺地内



観音像が安置してある。永禄六年（一五六三）以前に新町の火伏地藏が安置されていた処である。

大日堂

所在地 大字馬見原岩尾野



ものである。

宝塔

所在地 大字馬見原岩尾野

古川俊治氏宅前

通称「森の下」と呼ぶ屋号がある。

以前に「タブ」の大木があった処で、宅地及び田に造成され現在に至っている。

宝塔は完全な形で残されている。近傍の状況から見て、何か

大日如来像、外数体が安置してある。

敷地内に石柱が保存しており、

享保十四歳（一七二九）

壽 奉進 氏子 五十人

馬見原町 忠次郎

石切 善助

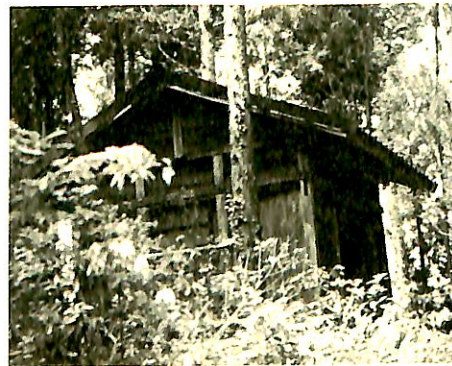
と馬見原町の古来からの歴史を証するものの一ツとして貴重な

薬師堂

関連ありそうである。

薬師如来像は見当たらないが、脇立の像、不動明王像が安置してある。

所在地 大字長崎下長崎



大師堂

所在地 大字長崎下長崎

弘法大師の石像、外数体の仏像が安置してある。



当福寺薬師堂

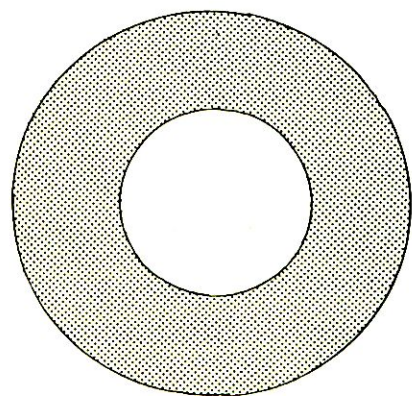
所在地 大字長崎上長崎

薬師如来像が安置されている。如来像は、天明三年（一七八三）及び明治二十三年（一八九〇）に彩色されている。

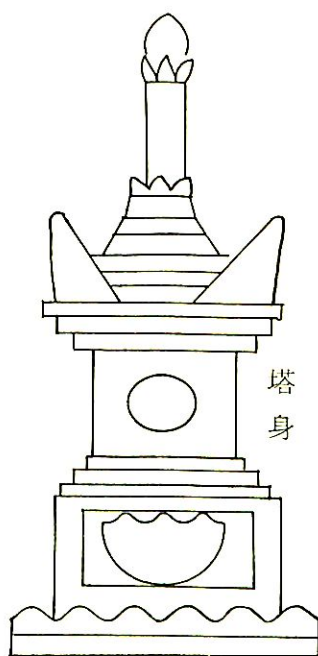
五輪塔は系譜、経本が焼失したため供養のため建立されたものと言うが、宝篋印塔二基については鎌倉時代のもものと推定される。

五輪塔については原形のまま完全に保存されているが、宝篋印塔については凍害に依って破損されている。

此処には「壁」と見られるものがあるが、この由来については詳しい事は判っていない。



壁



宝篋印塔



五輪塔

仏閣



所在地 大字柏

浄土真宗 (東派)

花降山光西寺 (現十二世)

寛永六年(一六二九)に僧良誓により花上に建立されたものを、明治十三年(一八八〇)十月現在地に遷されたものである。

所在地 大字長谷

浄土真宗

竜宝山東光寺

(現十二世)

延保三年(一六七

五) 佐藤出羽守の子

義典が建立したもの

と言う。



所在地 大字八木

浄土真宗

圓龍山永寿寺

(現十一世)

寛永年間(一六二

〇年代)に開基され

たが、七代住職の代

に被災し寺歴、系譜も全焼した。天保十四年(一八四三)癸卯天五月再建の棟簡が残っている。此処には椎屋にある「慈眼山祇福寺」にあった阿弥陀如来像が安置してあったが、草部の永秀寺が火災に依って全焼したために永秀寺に移されている。

所在地 大字菅尾

浄土真宗

倉岡山玄高寺 (現十世)

倉岡勘解由の嫡男山久、剃髪

して了海と改め、菅尾市兵衛よ

り招かれて馬見原玄高寺を現在

地に移したものである。





浄土真宗

寿福寺（現十三世）

高森町西連寺の庵であつたが、明治の初年に寿福寺として開基している。

所在地 大字花上



浄土真宗

青雲山龍專寺（現十三世）

当寺は古くから青雲山龍專寺として開基されていたが、門跡絶えていた処に「通寺禅宗長嶺山順正寺」として開基された。熊本市の慶徳の地名は、順正寺の慶徳和尚が居住した処と云う。寛永五年（一六二八）に片岡逸

所在地 大字馬見原

所在地 大字滝上

浄土真宗

精生山教尊寺（現十二世）

慶長五年（一六〇〇）頃、十高大膳守入道して修業、慶長七年（一六〇七）に至り土戸村に開基、明治二十七年（一八九四）三月現在地に移転後、昭和五年火災に遭い、昭和六年再築現在に至る。



左衛門が名を了覚と改めて開基

して順正寺と呼んだが、熊本に順正寺の寺号が多く、まぎらわしくなるとの理由で、明治初年（一八七〇）にもとの寺号青雲山龍專寺に改めたとしている。

所在地 大字馬見原

日蓮宗

祈禱寺



法水山長久寺（現世七世）

本寺は岩尾野に開基されていたが、明治二十七年（一八九四）に馬見原加藤社敷地に移転。大正九年の招魂祭の節に打上花火の不発により屋根に引火、焼失し（以後四年間宮崎県五ヶ瀬町に仮住居）大正十三年に至り現在地に移転したものである。淡嶋神（安産）妙見神（人の星祭守護神北辰妙見）清正公が合祀されている。別棟に鬼子母神（子供の守護神）が祀られ祈禱が行なわれている。

参考文献

肥後国誌、肥後読史総覧、国郡一統史、阿蘇家古文書、熊本の歴史（4近世上）、菅尾惣庄屋、下番番所の先祖付、早植村、柳村根元記、本田家、西家の古文書、小崎家、八田家の系譜、ひなた道（猿丸久元）、上古代史の再考（本田留蔵）、西南戦争高千穂戦記（西川功）、ほか記録、龍専寺寺歴、百科事典ほか、を引用して戴きました。

あとがき

「文化財」それは悠久のこの地に私達の祖先達が営々として築き上げた生活の中で、良き社会の時代また言語に絶する苦しい時代にも絶ず人々の心の中に現在迄生き続け、そして次の世代にと伝えられる運命さだめでもあります。

静かに住時を無言の裡に何かを教えているかのように尽された技術の粹にその威圧が感ぜられ、その時代が偲ばれます。

また一部に荒れた姿に接する時に一抹の淋しさも禁じ得ない気持が致します。

此の度の編集にあたり、未経験の上に然も抛るべき資料も限られ、許さるるなら詳細に記述致したかったものの紙面の都合等もあり紀行文的にまとめ、内容についても皆様方に御満足戴く事は程遠いものとなり、加えて正確を欠く場合も多々ある事と存じますが、発刊の趣旨に免じて御容赦戴きますと共に御教示賜りますようお願い致します。

取材にあたり皆様方から寄せられた貴重な御資料、そして御激励等について此の欄を借りて厚くお礼申し上げますと共に、引き続きの御協力を戴きますようお願い致します次第であります。

執筆及び写真撮影 佐藤 忍

日本元号西暦対照表

(平凡社事典から)

	平	安	時	代		平	安	時	代	◎大化以前は歴代天皇の 何年と云う		
										大	和	時
	貞元 976- 978		天長 824- 834		大化 645- 650		承和 834- 848		白雉 650- 686			
	天元 978- 983		嘉祥 848- 851		朱鳥(朱雀) 686- 701		仁寿 851- 854		大宝 701- 704			
	永観 983- 985		斉衡 854- 857		慶雲 704- 708		天安 857- 859		銅 708- 715			
	寛和 985- 987		貞観 859- 877		靈龜 715- 717		元慶 877- 885		老 717- 724			
	永延 987- 989		元慶 877- 885		神龜 724- 729		仁和 885- 889		天平感宝 749			
	永祚 989- 990		昌泰 898- 901		天平勝宝 749- 757		寛平 889- 898		天平宝字 757- 765			
	正暦 990- 995		延喜 901- 923		天平神護 765- 767		長平 923- 931		神護景雲 767- 770			
	長徳 995- 999		承平 931- 938		宝龜 770- 780		長平 931- 938		応和 781- 782			
	長保 999-1004		天慶 938- 947		延暦 782- 806		仁和 968- 970		大同 806- 810			
	寛弘 1004-1012		天曆 947- 957		天保 810- 824		寛平 970- 973					
	長和 1012-1017		天徳 957- 961				康保 964- 968					
	寛仁 1017-1021		応和 961- 964				安和 968- 970					
	治安 1021-1024		天保 964- 968				天安 968- 970					
	万寿 1024-1028		天保 964- 968				天禄 970- 973					
	長元 1028-1037		天保 964- 968				延暦 973- 976					
	長暦 1037-1040		天保 964- 968									
	長久 1040-1044		天保 964- 968									
	寛徳 1044-1046		天保 964- 968									
	永承 1046-1053		天保 964- 968									
	天喜 1053-1058		天保 964- 968									
	康平 1058-1065		天保 964- 968									
	治暦 1065-1069		天保 964- 968									

鎌倉	しょう承	げん元	1207-1211	平	てん天	よう養	1144-1145	平	えん延	きゅう久	1069-1074
	けん建	りゃく暦	1211-1213		きゅう久	あん安	1145-1151		しょう承	ほう保	1074-1077
	けん建	ほう保	1213-1219		にん仁	へい平	1151-1154		しょう承	りゃく暦	1077-1081
	じょう承	きゅう久	1219-1222		きゅう久	じゅ寿	1154-1156		えい永	ほう保	1081-1084
	じょう貞	おう応	1222-1224		ほう保	げん元	1156-1159		おう応	とく徳	1084-1087
	げん元	にん仁	1224-1225		へい平	じ治	1159-1160		かん寛	じ治	1087-1094
	か嘉	ろく禄	1225-1227		えい永	りゃく暦	1160-1161		か嘉	ほう保	1094-1096
	あん安	てい貞	1227-1229		おう応	ほう保	1161-1163		えい永	ちょう長	1096-1097
	かん寛	き喜	1229-1232		ちょう長	かん寛	1163-1165		しょう承	とく徳	1097-1099
	じょう貞	えい永	1232-1233		えい永	まん万	1165-1166		こう康	わ和	1099-1104
時	てん天	ふく福	1233-1234	安	にん仁	なん安	1166-1169	安	ちょう長	じ治	1104-1106
	ぶん文	りゃく暦	1234-1235		か嘉	おう応	1169-1171		か嘉	しょう承	1106-1108
	か嘉	てい禎	1235-1238		しょう承	あん安	1171-1175		てん天	にん仁	1108-1110
	りゃく暦	にん仁	1238-1239		あん安	げん元	1175-1177		てん天	えい永	1110-1113
	えん延	おう応	1239-1240		じ治	しょう承	1177-1181		えい永	きゅう久	1113-1118
	にん仁	じ治	1240-1243		よう養	わ和	1181-1182		げん元	えい永	1118-1120
	かん寛	げん元	1243-1247		じゅ寿	えい永	1182-1185		ほう保	あん安	1120-1124
	ほう宝	じ治	1247-1249		げん(元)	りゃく暦	1185-1185		てん天	じ治	1124-1126
	けん建	ちょう長	1249-1256		ぶん文	じ治	1185-1190		たい大	じ治	1126-1131
	こう康	げん元	1256-1257		けん建	きゅう久	1190-1199		てん天	しょう承	1131-1132
代	しょう正	か嘉	1257-1259	鎌倉	しょう正	じ治	1199-1201	代	ちょう長	しょう承	1132-1135
	しょう正	げん元	1250-1260		けん建	にん仁	1201-1204		ほう保	えん延	1135-1141
	ぶん文	おう応	1260-1261		げん元	きゅう久	1204-1206		えい永	じ治	1141-1142
	こう弘	ちょう長	1261-1264		けん建	えい永	1206-1207		こう康	じ治	1142-1144

(北 朝)

(南 朝)

南 北 朝 時 代	しょう 正	けい 慶 1332-1334	南 北 朝 時 代	けん 建	む 武 1334-1336 (38)	鎌 倉 時 代	ぶん 文	えい 永 1264-1275
	けん 建	む 武 1334-1338		えん 延	げん 元 1336-1340		けん 建	じ 治 1275-1278
	りやく 暦	おう 応 1338-1342		こう 興	こく 国 1340-1346		こう 弘	あん 安 1278-1288
	こう 康	えい 永 1342-1345		しょう 正	へい 平 1346-1370		しょう 正	おう 応 1288-1293
	しょう 貞	わ 和 1345-1350		けん 建	とく 徳 1370-1372		えい 永	にん 仁 1293-1299
	かん 観	おう 応 1350-1352		ぶん 文	ちゅう 中 1372-1375		しょう 正	あん 安 1299-1302
	ぶん 文	な 和 1352-1356		てん 天	じゅ 授 1375-1381		けん 乾	げん 元 1302-1303
	えん 延	ぶん 文 1356-1361		こう 弘	わ 和 1381-1384		か 嘉	げん 元 1303-1306
	こう 康	あん 安 1361-1362		げん 元	ちゅう 中 1384-1392		とく 徳	じ 治 1306-1308
	しょう 貞	じ 治 1362-1368		めい 明	とく 徳 1392-1394		えん 延	ぎょう 慶 1308-1311
	おう 応	あん 安 1368-1375					おう 応	ちょう 長 1311-1312
	えい 永	わ 和 1375-1379					しょう 正	わ 和 1312-1317
	こう 康	りやく 暦 1379-1381					ぶん 文	ぼう 保 1317-1319
	えい 永	とく 徳 1381-1384					げん 元	おう 応 1319-1321
	し 至	とく 徳 1384-1387					げん 元	こう 享 1321-1324
	か 嘉	けい 慶 1387-1389					しょう 正	ちゅう 中 1324-1326
	こお 康	おう 応 1389-1390					か 嘉	りやく 暦 1326-1329
	めい 明	とく 徳 1390-1394 (1392 合一)					げん 元	とく 徳 1329-1331 (32)
							げん 元	こう 弘 1331-1334

江戸時代	明	和	1764-1772	(安織田土・豊桃園)山時代	天	正	1573-1592	室町時代	応	永	1394-1428
	安	永	1772-1781		文	禄	1592-1596		正	長	1428-1429
	天	明	1781-1789		慶	長	1596-1615		永	享	1429-1441
	寛	政	1789-1801		元	和	1615-1624		嘉	吉	1441-1444
	享	和	1801-1804		寛	永	1624-1644		文	安	1444-1449
	文	化	1804-1818		正	保	1644-1648		宝	徳	1449-1452
	文	政	1818-1830		慶	安	1648-1652		享	徳	1452-1455
	天	保	1830-1844	江戸時代	承	応	1652-1655		康	正	1455-1457
	弘	化	1844-1848		明	暦	1655-1658		長	禄	1457-1460
	嘉	永	1848-1854		万	治	1658-1661		寛	正	1460-1466
	安	政	1854-1860		寛	文	1661-1673		文	正	1466-1467
	万	延	1860-1861		延	宝	1673-1681		応	仁	1467-1469
	文	久	1861-1864		天	和	1681-1694		文	明	1469-1487
	元	治	1864-1865		貞	享	1684-1688		長	享	1487-1489
	慶	応	1865-1868		元	禄	1688-1704		延	徳	1489-1492
	明	治	1868-1912		宝	永	1704-1711		明	応	1492-1501
	大	正	1912-1926		正	徳	1711-1716		文	亀	1501-1504
	昭	和	1926		享	保	1716-1736		永	正	1504-1521
					元	文	1736-1741		大	永	1521-1528
					寛	保	1741-1744		享	禄	1528-1532
					延	享	1744-1748		天	文	1532-1555
					寛	延	1748-1751		弘	治	1555-1558
					宝	暦	1751-1764		永	禄	1558-1570
									元	亀	1570-1573
	昭和59年		1984								



発行所 蘇陽町教育委員会

蘇陽町大字今
09678③1111

編集者 蘇陽町文化財保護委員会

編集執筆責任者 佐藤 忍

蘇陽町大字高辻三六五
09678⑤0504

印刷所 佐藤印刷所

蘇陽町大字馬見原
09678③0064

発行年月日 昭和五十九年三月

